

# 延岡市立北方学園いじめ防止基本方針



## 延岡市立北方学園

## 目次

### はじめに

- 第1章 いじめの問題に対する基本的な考え方
    - 1 基本理念
    - 2 いじめとは
    - 3 いじめの構造
    - 4 いじめの特質
    - 5 いじめの様態
    - 6 インターネット上のいじめ
    - 7 いじめる生徒の心理
    - 8 いじめを無くすための本校の構え 5か条
    - 9 指導上の留意点
  - 第2章 校内体制（いじめ防止対策委員会）
    - 1 いじめ防止対策委員会の設置
    - 2 いじめ防止対策委員会の役割
    - 3 組織的な指導體制
    - 4 校内研修の充実
    - 5 基本方針の点検と必要に応じた見直し
  - 第3章 いじめを未然防止するために
    - 1 生徒への取組
    - 2 職員の取組
    - 3 保護者・地域に向けて
  - 第4章 いじめを早期発見するために
    - 1 校内連携体制の充実
    - 2 共感的な人間関係の醸成
    - 3 アンケート調査等の効果的な実施と活用
  - 第5章 いじめ発見後に早期対応するために
    - 1 いじめの発見・発覚・通報を受けたときの対応
    - 2 生徒指導主事・管理職への報告
    - 3 対応体制の確立
    - 4 事実関係の把握
    - 5 対応方針の検討・決定
  - 第6章 いじめを確実に解決するために
    - 1 解決のための取組
    - 2 いじめられた生徒、その保護者への支援
    - 3 いじめた生徒、その保護者に対して
    - 4 観衆・傍観者に対して
    - 5 P T A や保護者・地域との連携
    - 6 ネット上のいじめへの対応
    - 7 重大事態への対処
    - 8 いじめの解消の定義
  - 第7章 他機関との連携について
    - 1 S C ・ S S W との連携に期待すること
    - 2 町教育委員会との連携に期待すること
    - 3 医療機関・こども相談センター・町役場福祉課・主任児童委員との連携に期待すること
    - 4 警察署との連携に期待すること
  - 第8章 学校評価における留意事項
  - 第9章 個人情報等の取扱い
- 【参考】資料1～5

## はじめに

学校教育において、今、「いじめ問題」が生徒指導上の喫緊の課題になっています。また、近年の急速な情報技術の進展により、インターネットへの動画サイトの投稿など、新たないじめ問題が生じるなど、いじめはますます複雑化、潜在化する状況にあります。いじめは深刻な人権侵害であり、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に長期にわたって重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせる恐れがあります。

延岡市立北方学園いじめ防止基本方針（以下「学校基本方針」という。）は、児童生徒の尊厳を保持する目的のため、国・県・市町村・学校・地域住民・家庭・その他の関係者の連携の下、いじめの問題の克服に向けて取り組むよう、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）第12条の規定に基づき、いじめの防止等（いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。以下同じ。）のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定しました。

## 第1章 いじめの問題に対する基本的な考え方

～いじめ防止対策推進法～

第2条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 この法律において「学校」とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（幼稚部を除く。）をいう。

3 この法律において「児童等」とは、学校に在籍する児童又は生徒をいう。

4 この法律において「保護者」とは、親権を行う者（親権を行う者のないときは、未成年後見人）をいう。

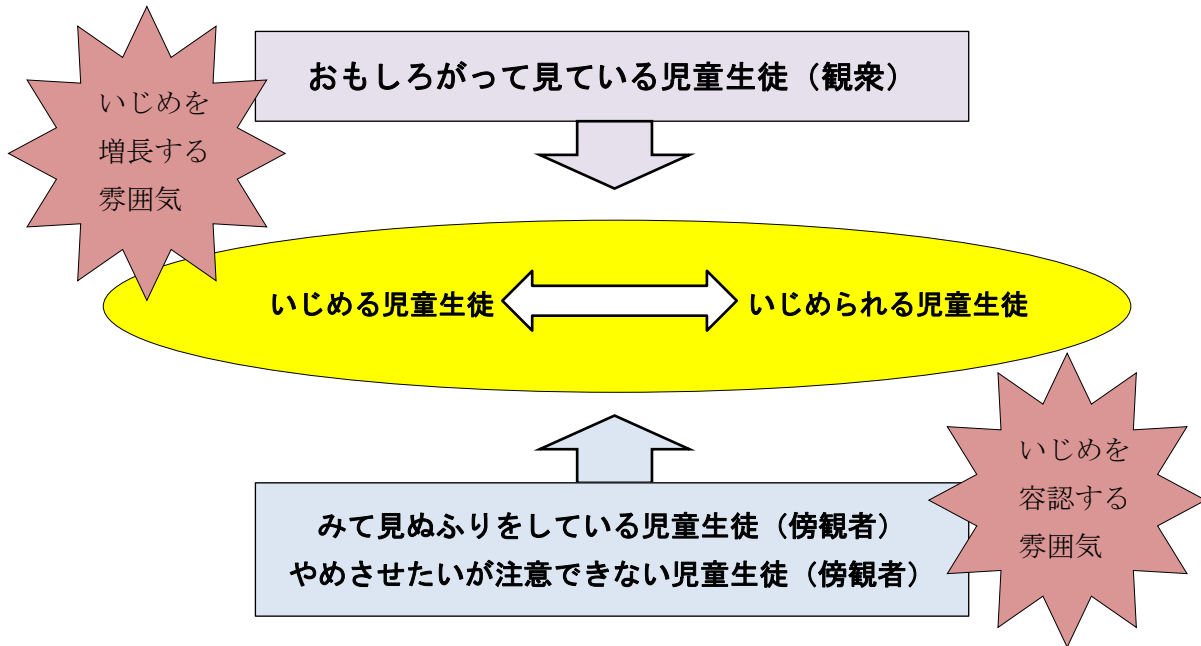
### 1 基本理念

「いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうる。」という基本認識に立ち、本校からいじめを一掃して、生徒一人一人が好ましい人間関係を構築しながら毎日の学校生活を安心して楽しく送ることができることを願い、ここに「北方学園いじめ防止基本方針」を策定する。

### 2 いじめとは

本校児童生徒が、その当該児童生徒と一定の人的関係にある者から心理的、物理的な攻撃を受けることにより、当該児童生徒に精神的、肉体的な苦痛を感じさせているもの（こと）をいう。

### 3 いじめの構造



### 4 いじめの特質

- いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうるもの。
- いじめは、目に見えにくいもの。
- いじめは、人に相談しにくいもの。
- いじめの態様は、冷やかしやからかいから犯罪にあたるものまで多種・多様なもの。
- いじめられる側とそれ以外の者の認識が違っていることがある。
- いじめは、複雑化・深刻化すると人の命に関わるもの。
- いじめは、いじめられた者の心の中に永遠に残る「心の傷」となるもの。

### 5 いじめの態様（文部科学省の分類を参考）

- 冷やかしやからかい・悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。【言葉】
- 仲間はずれ、集団による無視。【仲間はずし】
- 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。【軽度暴力】
- ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。【暴力】
- 金品をたかられる。【恐喝】
- 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。【悪戯】【盗難】【損壊】
- 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。【脅迫】【侮辱】【強要】
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。【誹謗中傷】【個人情報漏洩】【名誉毀損】
- その他

### 6 インターネット上のいじめ

文字や画像を使い、特定の児童生徒の誹謗中傷を不特定多数の者や掲示板等に送信する、特定の児童生徒に成りすまし、社会的信用をおとしめる行為をする、掲示板等に特定の児童生徒の個人情報を掲載するなどがインターネット上のいじめであり、犯罪行為に当たる。

## 7 いじめる生徒の心理（いじめの解決の一助として）

### ○ 欲求不満

学業不振、受験からの逃避、人間関係の悩み、両親の不和、親子・兄弟姉妹関係の不和、両親の離婚、虐待等、人に言えない不満から攻撃的になる場合がある。

### ○ 劣等感

学業、家庭状況を他人と照らし合わせて自分の状況に劣等感を抱き、その感情の捌け口としていじめに走る場合がある。

### ○ 優越感

様々な自己顕示欲を満たすため、自己の権威を高めるために、周りの児童生徒をおとしめようとする場合がある。

### ○ その他の心理

様々な要素が複合している場合や上記以外の何らかの心理状況に陥っている場合等。

## 8 北方学園のいじめを無くすための5か条

- ① 本校からのいじめの一掃を目指します。
- ② いじめは決して許されない行為であることを生徒や保護者への周知を図る取組に努めます。
- ③ いじめはいつでも、どこでも、誰にでもおこりうることを踏まえ、いじめ問題に対して万全の体制で臨みます。
- ④ 「未然防止」、「早期発見」を大原則とし、いじめに対しては「早期対応」、「早期解決」を目指します。
- ⑤ いじめを受けている児童生徒がいた場合、当該児童生徒を絶対に守ります。

## 9 指導上の留意点

- ① 一部の教師が、自分（達）だけで解決できるという過信や同僚の負担に対する負い目などで事案を上司や組織に相談せず情報を抱え込む行為については、教職員としての重大な職務違反であることを認識する。
- ② いじめられた児童生徒の主観を確認するとともに、いじめられた児童生徒周辺の状況、人的関係等を客観的に確認することに努める。
- ③ いじめの認知は、特定の教職員によることなく、スクールカウンセラー（以下SC）やスクールソーシャルワーカー（以下SSW）、弁護士等の専門家やの派遣、警察等関係機関と連携する。
- ④ その事案に対する人間関係の背景やどのような行為をされたのか等、細かな事実確認を行い、いじめられた児童生徒の精神的、肉体的苦痛を確実に把握する。なお、インターネットで誹謗中傷された児童生徒が認知していない場合など、児童生徒本人が苦痛を感じずにいる場合についても、加害児童生徒に対する指導等については、様々な趣旨を踏まえて適切な対応をとる。
- ⑤ 例えば、好意から行った行為が意図せずに相手側の児童生徒に心身の苦痛を感じさせてしまった場合や、相手を傷つけたが、すぐに加害児童生徒が謝罪し教員の指導もなく良好な関係を再び築くことができた場合等においては、柔軟な対応による対処も必要である。ただし、これらの場合であっても、法が定義するいじめに該当するため、学校全体・組織

における情報共有、再発防止等の対策の検討等を行う。

- ⑥ 「いじめの態様」の中には、早期に警察に相談することが重要なものや、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。これらについては、教育的な配慮や被害を受けた生徒の意向へ配慮し、早期に警察と連携した対応をとる。

## 第2章 校内体制（いじめ防止対策委員会）

～いじめ防止対策推進法～

第22条 学校は、当該学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、当該の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他関係者により構成される「いじめ防止・対策委員会」を設置する。

### 1 いじめ防止対策委員会の設置（兼 不登校対策 生徒指導対策 生徒理解）

- 構成メンバー：校長・教頭・生徒指導主事・学年主任・関係担任・養護教諭  
（必要に応じて：SC・SSW・その他関係機関）
- それぞれの役割（具体的なポイントについては資料2を参照）
  - ・ 校長【総責任者】および教頭：①方針の明確化 ②組織の活性化 ③校内研修の充実  
④外部機関・SC・SSWとの連携  
（必要に応じて ⑤保護者面接 ⑥ マスコミ対応）
  - ・ 生徒指導主事：①情報の集約 ②指導助言・支援の指示  
③生徒指導（事情聴取・説諭）（必要に応じて ④保護者面接）
  - ・ 学年主任：①担任のフォローアップ ②生徒指導（事情聴取・説諭）  
③保護者対応（連絡・事情説明・家庭訪問） ④保護者面接  
⑤アフターフォロー（解決後の生活見届け・学年全体への指導）
  - ・ 学級担任：①いじめの早期発見・事実確認 ②管理職・対策委員会への報告  
③生徒指導（事情聴取・説諭） ④保護者対応（連絡・事情説明・家庭訪問）  
④保護者面接  
⑤アフターフォロー（解決後の生活見届け・学級への指導）
  - ・ 養護教諭：①児童生徒来室状況や相談、会話等の情報提供  
②欠席状況の把握と情報提供
  - ・ SC・SSW：①必要に応じて被害・加害児童生徒へのカウンセリング  
②対応等に対する助言や支援 ③生徒の状態把握と情報提供
  - ・ その他必要に応じて、民生児童委員・町福祉課・子ども相談センター・医療機関・警察等の参加を要請する。

### 2 いじめ防止対策委員会の役割

- 生徒の日常生活を複数の目で把握することでいじめの芽を早期発見する。
- 本校におけるいじめ防止等の取組や、保護者へのいじめ防止啓発等に関わる。
- 本校で生じたいじめ問題の対応を協議する。

### 3 組織的な指導体制

- いじめの事実が報告されたら、直ちにいじめ防止対策委員会を招集する。
- 事実関係の把握、関係児童生徒・保護者への対応等の協議を行い、迅速に指導を開始する。
- 担任、学年任せにせず、学校全体で組織的に対応する。
- 全職員に事実を伝え、共通認識・共通行動で指導にあたる。
- 教職員が児童生徒とよく向き合い、児童生徒がよく相談できる環境を作るなど、いじめ防止等に対して教職員が負荷なく適切に取り組むことができるように、校務分掌の適正化、校務の効率化を図る。

### 4 校内研修の充実

- 本基本方針を活用した校内研修を実施し、いじめの問題について、全ての職員で共通理解を図る。
- 職員一人一人に様々なスキルや指導方法を身につけさせるなど、職員の指導力やいじめの認知能力を高める研修や、SC・SSW等の専門家を講師とした研修、具体的な事例研究を計画的に実施する。

### 5 基本方針の点検と必要に応じた見直し

- 国や県の動向等を勘案しながら、基本方針の見直しを検討し、必要があると認めるときは、その結果に基づいて必要な措置を講じる。また、基本方針については、状況や課題に応じて、普段から定期的な改善や見直しに努める。
- 学校の基本方針の見直しがあれば、随時ホームページ上で公表する。

## 第3章 いじめを未然防止するために

### 1 児童生徒への取組

- 「居場所」と「絆」のある学校・学級づくり  
集団内で役割を担い、達成感や成就感を感じ取る経験を積むことや温かい人間関係の中でお互いを認め合う集団作りの取組
- 「規範意識」の向上・「自己指導能力」の育成  
規範意識を醸成することが「いじめは絶対許されない行為であること、卑劣で恥ずべき行為であること」を認識させる近道であると考え、学校のルールをきちんと守らせる指導の徹底や生徒会活動の充実
- 「分かる授業づくり」、学習の「基礎・基本の定着」  
わかる授業を行い、学力の基礎・基本の定着を図り、学習に対する達成感や成就感を持たせることが、児童生徒の心や生活を安定させる近道であると考え、学習指導を充実。
- 「生命」や「人権」を大切にする指導  
道徳教育の充実を図るとともに学校教育全体を通して「命の大切さ」を実感できる体験活動等を実施。
- 「情報リテラシー」・「情報モラル」の育成（インターネット上のいじめ予防対策）  
最近のいじめ問題にはネットを介したものが急増している。児童生徒、保護者に通信や講演会、懇談会等を通して積極的な啓発、情報リテラシーや情報モラルの向上が必要

## 2 職員の取組

- ◎ 基本方針「いじめをさせない・見逃さない・許さない」
- ◎ いじめ防止に対して毅然とした態度で、徹底して取り組む。

- いじめに取り組む方針の明確化と公表
  - ・ いじめ防止対策委員会を設置する。
  - ・ 「いじめに対して学校としてどう取り組むのか」という方針を明確化する。
  - ・ 「学校いじめ防止プログラム」を作成する。(別紙 資料1 参照)
  - ・ 全職員での基本方針の共通理解。(職員研修の実施)
  - ・ ホームページや通信などを使い、広く方針を公表する。
- 全職員の意識向上
  - ・ 情報が確実に把握できる体制を整備する。
  - ・ アンテナを高く張り、いじめの芽、生徒の変化を察知、発見できる体制をつくる。
  - ・ 教職員が高い人権感覚を磨き、常に自らの指導体制を見直すとともに、教師としてのコンプライアンスの姿勢、体勢を常備する。
  - ・ 情報リテラシー、情報モラルに関する職員研修を実施する。
- 気になることを見逃さず、お互いに伝え合う職員集団
  - ・ 日常的な情報共有を常に心掛ける。
  - ・ 学担だけでなく、学年を中心に複数職員での把握、指導を行う。
  - ・ 些細なことでも懸案事項があれば迅速な情報収集、把握、情報共有を行う。

## 3 保護者・地域に向けて

- 必要に応じ、いじめについての情報を共有することで、複数の大人により、児童生徒を見守る体制を整える。
- 情報交流や意見交換の場を設けることで、連携の強化を図る。
- オープンスクールなどを実施し、保護者が気兼ねなく学校に足が向く学校づくりを目指す。

## 第4章 いじめを早期発見するために

### 1 校内連携体制の充実 【組織・体制としての状況把握】

- 小さいいじめのサインを見逃さないきめ細かな情報交換。(別紙 資料2、3 参照)
- SC、SSW等と協力体制の整備。
- 全職員(事務職員や給食職員、ALTも含め)での情報把握。
- 本校のいじめ相談担当者(教頭・生徒指導主事・養護教諭)による相談窓口や、国、県、地域の青少年に関する相談窓口について、広く周知。



※ 国の相談窓口「子どもの人権 110 番」	0120-007-110	
県教育委員会「ふれあいコール」	0985-38-7654	0985-31-5562
青少年育成センター	0982-32-4840	
延岡警察署「ヤングテレフォン」	0982-21-7874	
延岡市教育委員会北方分室	0982-47-2070	

- インターネット上でのいじめの事例を知る機会やネットパトロールを実施する等、インターネット上のいじめ防止対策を整備。また、県教育委員会の目安箱サイト等のインターネット上の相談窓口についても周知。

※ 法務省や弁護士事務所、警察署や県教育委員会等、様々な専用サイトがある。  
 県教育委員会「目安箱サイト」 <http://meyasubako.miyazaki-c.ed.jp/>

## 2 共感的な人間関係の醸成 【児童生徒から情報が入りやすい環境づくり】

- 児童生徒の立場に立った人間味ある温かい指導。
- 教師が児童生徒一人一人とのふれあいを大切にする。
- 自分や仲間のよさを伝え合い、互いの存在を認め合う指導。
- 児童生徒同士で悩みを聞きあい、相談しあう活動の充実。

## 3 アンケート調査等の効果的な実施と活用【心の状態を把握する方途】

- 年間を通じた計画的なアンケートの実施
  - ・ 毎月、「生活アンケート」（児童生徒向け）を（教育相談を実施する月以外）実施する。
  - ・ 年3回（6月、11月、2月）、「教育相談アンケート」（児童生徒向け）を実施する。
  - ・ 年1回（2月頃）、「学校教育評価アンケート」（保護者向け）にいじめの項目を入れて実施する。

※「生活アンケート」・・・いじめに関する記名式または無記名式アンケート。（時と場に応じる）  
 ※「教育相談アンケート」・・・学習、進路、部活、家庭、人間関係などに関する記名式アンケート。  
 ※「学校教育評価アンケート」・・・学校評価に関するアンケート。
- 教育相談週間を設定し、「教育相談アンケート」をもとに教育相談を実施。
  - ・ 児童生徒一人一人との個別面談。
  - ・ 学級担任を基本とし、希望があれば学級担任以外の職員との相談も実施。
- SCによる教育相談を設定し、教育相談を実施。
  - ・ SCによる児童生徒一人一人との個別面談。
  - ・ 特別支援コーディネーターがSCと連絡調整し、時間を設定する。
- アンケートや教育相談などから得られた情報の活用
  - ・ 毎週水曜日の職員会での生徒理解の時間やその他の職員会議で情報を共有する。
  - ・ 小さなサイン、大きな悩み等、知り得たことを、丁寧に保護者へ連絡し、今後の協力体制を整える。
  - ・ 進級時の情報の確実な引き継ぎ。
  - ・ 過去のいじめ事例として情報を蓄積。

## 第5章 いじめ発見後に早期対応するために

- いじめられた児童生徒、いじめた児童「生徒の双方から話を聴く時は、慎重かつ注意深く進め、事実をつきあわせる。その際、矛盾がないか複数の職員で整理する。

## 2 生徒指導主事・管理職への報告

- どのケースも緊急事態の意識をもち、報告を最優先する。
- 情報の把握をした複数の職員で報告する。

## 3 対応体制の確立

- 速やかにいじめ防止対策委員会を開き、事案に応じて柔軟な対応体制を確立する。
- 事実関係把握までの手順・役割分担・内容を明確にした正確な事実確認の協議を迅速に行う。
- 情報が本人、保護者からの提供の場合やいじめが怪我、破損などで明確な場合、即日に対応する。それ以外の場合は、事実に応じて組織的に迅速な対応を協議する。

## 4 事実関係の把握

- 今後児童生徒から聞き取るべき内容・留意すべき内容を確認した上で、最終的な事実のすり合わせを、複数の職員で行う。
- 5W（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ）1H（どのように）といった時系列的な情報の把握を目指す。
- 被害児童生徒、加害児童生徒、関係者（観衆・傍観者）から個別に同時進行で事情を聴取する。
- 聴取しながら職員間で随時情報を交換し、事実のズレや秘匿を減らし全体像を把握する。

## 5 対応方針の検討・決定

- 被害児童生徒の安全や保護を最優先にしながら、組織で精神的、肉体的な苦痛の度合いを確認し、今後の対応（関係機関との連携・保護者への伝達等）を検討する。
- 関係職員で、対応について（時間・役割・方法など）協議、決定し、全職員に速やかに周知するなど、迅速に対応する。
- 被害児童生徒の保護者には方針や今後の動きなどを確実に伝達する。家庭訪問の実施。（主任・担任）

# 第6章 いじめを確実に解決するために

## 1 解決のための取組

- 解決を第一に考え、保護者及びその他の関係者との適時・適切な情報の共有（事実確認が把握された時点で決定した対応方針のお知らせなど）を図る。
- 校長は、市教育委員会への報告を速やかに行う。
- 生命や身体、金銭強要の被害など、そのいじめが犯罪行為であると認められる場合には、警察等関係機関と連携して対応する。
- その他、専門的な支援等が必要な場合には、各関係機関の協力を求める。
- 指導及び支援方針の変更等が必要な場合もあることを念頭に置き、随時いじめ防止対策委員会で指導・支援方針の確認や変更をする。
- 被害児童生徒と加害児童生徒の双方の保護者が対立するなど、保護者同士の問題も念頭

におく必要がある。中立、公正に、教職員が間に入って関係調整を図る。

- 全職員で見届けや見守りなど、継続指導・継続観察（基本は3か月以上）を行い、いじめの再発防止に努める。

## 2 被害児童生徒、その保護者への支援

- ◎ 徹底して被害を受けた児童生徒の立場に立って対応する。
- ◎ 「解決した」と考えてから、3か月以上は継続して観察する。

- 対応は学級担任が基本であるが、最も信頼関係のある教職員が対応するなど、いじめられた生徒の心情を十分理解しながら複数で対応する。
- 「最後まで絶対に守る」という姿勢で、被害児童生徒、保護者に安心・安全を確保する。
- 被害児童生徒の意向を汲み、安心して学校生活を送るための具体策（人間関係の構築、学級・学年への指導について等）を提案する。
- 心のケアや登下校、休み時間等の見守りを組織的に継続して行う。
- 親子のコミュニケーションや家族のふれあいを大切にする等、家庭でのケアについても協力を求める。
- 加害児童生徒の保護者に向けての不満や、学校への不信感など、被害児童生徒の保護者の思いを丁寧に聞き取り、寄り添う態度で支援を行う。その際、管理職や各関係機関なども同席し、様々な視点から支援を行うことも有効的である。
- 解決後も、保護者に経過等を定期的に報告する。（アフターケア）

## 3 加害児童生徒、その保護者に対して

- ◎ いじめを行った動機や気持ちにしっかりと目を向けさせ、今後の生活について前向きに取り組ませる意欲作りをさせるよう、徹底した指導を行う。

- 行為に対して正面から向き合わせ、いじめはいかなる理由があっても許されないことであると毅然とした態度で指導する。
- 加害児童生徒に認識の違いがある場合も考えられる。認識のズレを無くし、自らの非を心の底から納得できる指導を目指す。
- 相手の心の痛みを理解させ、今後の行動改善を熟考させる。
- 加害児童生徒の心に別要因の悩み等が内在しているケースが多い。その点については、共感的に理解し、悩み解決の一助を指導に加える。
- 保護者にはありのままの事実を伝え、子供の成長のための協力関係を確実に構築する。
- 双方の和解を急ぐあまり、逆に保護者同士の対立が生まれる可能性がある。謝罪の意思や学校に対する意見などを中立的な立場で学校が集約し、確実な双方の和解に努める。
- 解決後しばらくは、保護者に経過や改善された行動などの報告を定期的に行う。

## 4 観衆・傍観者に対して

- ◎ いじめは周りの者の態度によって助長、または逆に抑止されることに気付かせる指導を行う。

- いじめは観衆によって加速し、傍観者によって深刻化することを、発達の段階に応じて

指導する。

- 全教育活動を通して、思いやりの心や正義感の育成、自己肯定感が味わえる集団作りに努める。

## 5 PTAや保護者・地域との連携

◎ 児童生徒の幸せにつながる信頼関係の構築。成長を見守る意識での連携。

- 必要に応じて、児童生徒についての情報等を共有し、家庭と地域から、児童生徒の様子を継続して見守れるようなコミュニティの構築を目指す。
- 情報共有、意見交換の場を設け、一層の連携強化を図る。

## 6 ネット上のいじめへの対応

- 不当な書き込み等、犯罪行為と認められるいじめを発見したときには、市教育委員会、警察への連絡・相談に加え、書き込み等に使われたアプリケーションの管理者や事業者への相談及び書き込み削除の依頼等、状況に応じて協力依頼を行う。

## 7 重大事態への対処

- いじめの事案が次の状態にある場合には、重大事態として直ちに校長が市教育委員会に報告するとともに、市教育委員会が設置する重大事態調査のための組織に協力する。
  - ① 児童生徒の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがある場合。
    - ・ 児童生徒が自殺を企図した
    - ・ 精神性の疾患を発症した
    - ・ 高額な金品を奪い取られた など
  - ② 児童生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている場合
    - ・ 長期入院が必要な重大な障害を負った
    - ・ 長期間欠席をせざるを得ないほどの精神的苦痛を加えられた
    - ・ 断続した欠席だが年間30日を超えている場合は、状況によって判断する。
- 事案についての明らかになった事実について各関係機関に情報を提供する場合、必要な情報を提供する責任を有することを踏まえつつも個人情報保護に十分配慮しながら、適時・適切な方法で説明する。

## 8 いじめの解消の定義

- 解消の状態は、以下の2つの要件が満たされていることを必要とする。

- ① いじめが止んでいる状態が3か月以上続いている。
- ② 心身の苦痛を感じていないかどうか面談等により確認する。

## 第7章 他機関との連携について

### 1 SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）との連携に期待すること

- いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、子ども達の悩みや不安等の相談。
- 保護者の相談。

- カウンセリングの実施。
- 校内対策委員会への助言と支援。
- 外部機関とのパイプ役。

## 2 市教育委員会との連携に期待すること

- 学校からいじめの事実についての連絡を受けた場合の支援体制の構築。
- いじめの問題が長期化している、問題の内容が複雑化している等、経過報告の内容に応じた支援。
- ※ 学校側は、積極的な支援の呼びかけを期待するだけでなく、本校からの積極的な支援の依頼もできるよう、双方の密な連携を図る。

## 3 医療機関・子ども相談センター・延岡市生活福祉課・主任児童委員との連携に期待すること

- 専門的な角度から総合的な判断と対応の支援。
- ※ 育成、養護、保健、障がい等の児童福祉や非行、DV、ネグレクト等の家庭教育等が関係するケースについては、様々な外部機関と連携を図る必要がある。
- 問題の解決のための継続的な連携。

## 4 警察署との連携に期待すること

- 犯罪性が高い問題については、法に則り連携して対応。
- 被害者救済、二次被害防止、再発防止の徹底。

## 5 他校との連携に期待すること

- いじめられた児童生徒といじめた生徒が同じ学校に在籍していない場合、いじめられた児童生徒、その保護者に対する支援やいじめた児童生徒への指導、その保護者に対する助言、再発防止の取組等を、学校相互間の連携を密にして整備。

## 第8章 学校評価における留意事項

- いじめを隠蔽せず、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、学校評価において、次の2点を加味し、適正に学校の取組を評価する。
  - ① いじめの早期発見の取組に関すること。
  - ② いじめの再発を防止するための取組に関すること。

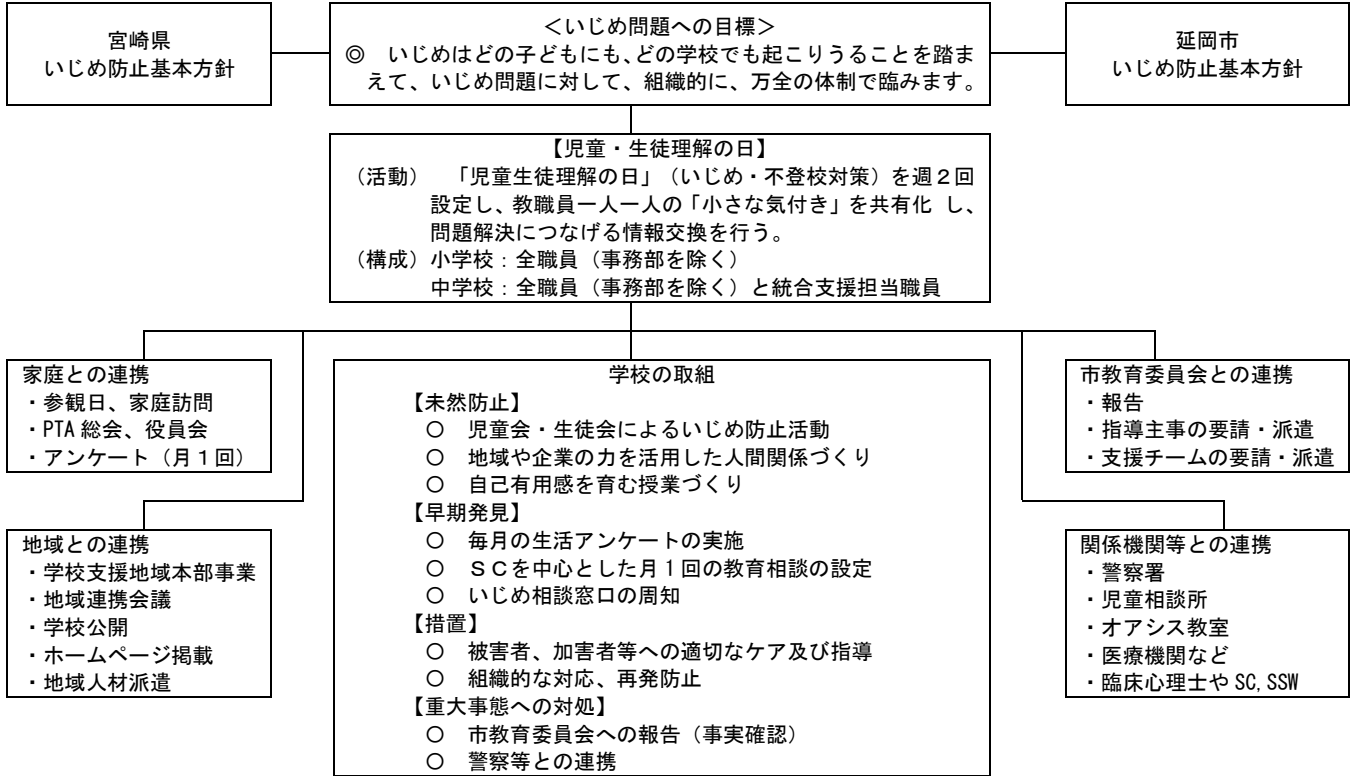
## 第9 個人情報等の取扱い

- いじめ問題が重大事態に発展した場合等に、個人調査（アンケート等）が資料として重要になることから、3年間を基本として保存しておく。

資料 1

北方学園いじめ防止プログラム

(1) いじめ防止の構造



(2) いじめ防止年間指導計画

月	未然防止				時期		保護者・地域との連携	PDCA
	学校行事	生徒が主体となった活動	道徳や特別活動	職員研修	アンケートや教育相談等	いじめ防止対策委員会等		
4	入学式 オリエンテーション 歓迎行事	新入生との絆づくり 全校生徒の協力的体制づくり	《道》いじめ①	学校基本方針の 確認と目標の共有	生活アンケート①	毎回の小中別職朝 で、学年内のいじめ の状況について情 報共有	PTA総会 (基本方針の説明)	計画・目標作成
5	体育祭 生徒総会	体育祭に向けた各団 の絆づくり	《特》いじめ① 「いじめの定義 理解」		悩みと相談アンケート① 教育相談	↓	体育祭への協力 PTA連絡協議会 春の見守り運動	
6	遠足(小) 修学旅行(小)	いじめ防止について の話し合い、取組の決 定	《道》いじめ②		生活アンケート②	毎週水曜日のいじ め防止対策委員会 (生徒理解・職朝) で、各学年のいじめ の状況(不登校・そ 他含む)を報告 し、組織対応につ いて協議		
7			《特》いじめ② 「加害者は周囲 からどう見られ ているか」	人権教育研修①	生活アンケート③		通信でのいじめ 防止活動報告	職員研修(道 徳・特別活 動・人権教 育)
8				各種アンケート の分析と取組の 改善の協議	生活アンケート④	↓	家庭訪問	中間評価と 取組の改善
9	修学旅行(小)	体育大会での絆づく り	《道》いじめ③		生活アンケート⑤			
10	清流祭 生徒会役員選挙 生徒会任命式	清流祭での絆づくり	《特》いじめ③ 「傍観者になら ないために1」	人権教育研修②	生活アンケート⑥	アンケート等をも とに、職員会議で月 一回全校のいじめ の状況について報 告し、情報を共有	清流祭への協力	職員研修(人 権教育)
11	干支フェス		《道》いじめ④		悩みと相談アンケート② 教育相談			
12	持走駅伝大会 ありがとう集会	集団を正しく導くた めの話し合い、取組の 決定		各種アンケート の分析と取組の 改善の協議	生活アンケート⑦	※緊急の事案につ いては随時対策委 員会を開催	通信でのいじめ 防止活動報告	中間評価と 取組の改善
1			《特》いじめ② 「傍観者になら ないために2」		生活アンケート⑧	※アンケートの分 析、取組の改善原 案作成		
2	立志式(中)		《道》いじめ⑤		生活アンケート⑨		保護者アンケート	
3	お別れ遠足 卒業式			今年度の反省と 次年度取組事項 協議	生活アンケート⑩		通信でのいじめ 防止活動報告	保護者アン ケートの分 析・次年度計 画作成

※ 計画を作成するに当たっては、教職員の研修や児童生徒への指導、地域や保護者との連携などを留意し、総合的にいじめ対策を推進する。

資料 2

## 北方学園におけるいじめの防止等のための職務別ポイント

- いじめの防止用のための対策に関する基本的な方針を定める。
- 複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者、その他の関係者により構成されるいじめの防止等の対策のための組織を設ける。
  - いじめへの対応は、校長を中心に一致協力体制を確立することが重要。
  - いじめに関する情報は特定の教職員が抱え込むのではなく、「組織」で情報共有し、組織的に対応。
  - いじめに関わる情報が教職員に寄せられたときは、教職員は、他の業務に優先して、かつ、即日、当該情報を速やかに学校いじめ対策組織に報告し、学校の組織的な対応につなげる。

### (1) いじめの防止のための措置

#### 《学級担任・教科担任》

- 日常的にいじめの問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気学級全体に醸成する。
- はやし立てたり見てみぬふりをしたりする行為もいじめを肯定していることを理解させ、いじめの傍観者からいじめを抑止する仲裁者への転換を促す。
- 一人一人を大切にしたり分かりやすい授業作りを進める。
- 教職員の不適切な認識や行動が、児童生徒を傷つけたり、他の児童生徒によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方には細心の注意を払う。

#### 《養護教諭》

- 学校保健委員会や学校の教育活動の様々な場面で、命の大切さを取り上げる。

#### 《生徒指導担当教員》

- いじめの問題について校内研修や職員会議で積極的に取り上げ、教職員間の共通理解を図る。
- 日ごろから関係機関等を定期的に訪問し、情報交換や連携に取り組む。

#### 《管理職》

- 全校集会などで校長が日常のいじめの問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」という雰囲気を学校全体に醸成する。
- 学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進等に計画的に取り組む。
- 児童生徒が自己肯定感を高められる場面や、困難な状況を乗り越えるような体験の機会などを積極的に設けるよう教職員に働きかける。
- いじめ問題の解決に児童生徒自らが主体的に参加する取り組みを推進する。(例えば、児童会・生徒会によるいじめ撲滅宣言や相談箱の設置など。)

## (2) 早期発見のための措置

### 《学級担任》

- 日頃からの児童生徒の見守りや信頼関係の構築等に努め、児童生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ。
- 休み時間・放課後の生徒との雑談や日々の日記等を活用し、交友関係や悩みを把握する。
- 個人面談や家庭訪問の機会を活用し、教育相談を行う。

### 《教科担任》

- 日頃からの児童生徒の見守りや信頼関係の構築等に努め、児童生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ。
- 日頃の授業から、学習活動での失敗や間違いに対して冷やかしたり、陰で笑ったりする行為や雰囲気に対して敏感になり、いじめの小さい芽を見逃さないような意識を高くもつ。

### 《養護教諭》

- 保健室を利用する児童生徒との雑談の仲などで、その様子に目を配るとともに、いつもと違う雰囲気、様子を感じた時は、その機会を捉え、悩みを聞く。
- 些細なことであっても学級担任や学年主任、生徒指導主事などに報告・連絡する。その際、情報共有とともに守秘義務についても十分考慮する。

### 《生徒指導担当教員》

- 定期的なアンケート調査や教育相談の実施等に計画的に取り組む。
- 保健室やスクールカウンセラー等による相談室の利用、電話相談窓口について周知する。
- 休み時間や昼休みの校内巡視や、放課後の校区内巡回等において、子供が生活する場の異常の有無を確認する。

### 《管理職》

- 児童生徒及びその保護者が、教職員にいじめに関する相談を行うことができる体制を整備する。
- 学校における教育相談が、児童生徒の悩みを積極的に受け止められる体制となり、適切に機能しているか、定期的に点検する。

## (3) いじめに対する措置

### ① 情報を集める

#### 《学級担任、教科担任、養護教諭》

- いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止める。(暴力を伴ういじ



めの場合は、複数の教員が直ちに現場に駆けつける。)

- 児童生徒や保護者から「いじめではないか」との相談や「いじめられた」との訴えがあった場合には、真摯に傾聴する。
- 発見の報告や通報を受けた場合は、速やかに関係児童生徒から聞き取るとして、いじめの正確な実態把握を行う。
- いじめた児童生徒が複数いる場合は、同時刻かつ個別に聞き取りを行う。
- 上記のような方法で知り得た情報をいじめ防止対策委員会へ報告する。

### 《いじめ防止対策委員会》

- 教職員、児童生徒、保護者、地域住民、その他からいじめの情報を集める。
- その際、得られた情報は確実に記録に残す。
- 一つの事象にとらわれ過ぎず、いじめの全体像を把握する。

## ② 指導・支援体制を組む

### 《いじめ防止対策委員会》

- 正確な実態把握に基づき、指導・支援体制を組む。(学級担任等、養護教諭、生徒指導担当職員、管理職などで役割を分担。)
  - いじめられた児童生徒や、いじめた児童生徒への対応。
  - その保護者への対応
  - 教育委員会や関係機関等との連携の必要性検討
- 些細な兆候であっても、いじめの疑いがある行為には、早い段階からの確に関わりをもつことが必要。
- 児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、援助を求める。教育委員会へも事後報告する。
- 現状を把握し、随時、指導・支援体制に修正を加え、いじめ防止対策委員会がより適切に対応する。

## ③- I 児童生徒への指導・支援を行う

※ いじめ防止対策委員会で決定した指導・支援体制に基づき、指導・支援を行う。

### 《いじめられた児童生徒に対応する職員》

- いじめられた児童生徒やいじめを知らせてきた児童生徒の安全を確保するとともに、いじめられた児童生徒に対し、徹底して守り通すことを伝え、不安を除去する。
- いじめられた児童生徒にとって信頼できる人(親しい友人や教職員、家族、地域の人等)と連携し、いじめられた児童生徒に寄り添い支える体制を作る。
- いじめられている児童生徒に「あなたが悪いのではない」ことをはっきりと伝えるなど、自尊感情を高めるよう留意する。

### 《いじめた児童生徒に対応する職員》

- いじめた児童生徒への指導にあたっては、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。

- 必要に応じて、いじめた児童生徒を別室において指導したり、出席停止制度を活用したりして、いじめられた児童生徒が落ち着いて教育を受ける環境の確保を図る。
- いじめる児童生徒に指導を行っても十分な効果を上げることが困難である場合は、所轄警察署等とも連携して対応する。
- いじめた児童生徒が抱える問題など、いじめの背景にも目を向ける。
- 不満やストレス（交友関係や学習、進路、家庭の悩み等）があっても、いじめに向かうのではなく、運動や読書などでの的確に発散できる力を育む。

### 《学級担任等》

- 学級等で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるようにする。
- いじめを見ていた児童生徒に対しても、自分の問題として捉えさせるとともに、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気を持つよう伝える。
- 同調していた児童生徒に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させる。

### 《いじめ防止対策委員会》

- 状況に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、警察官関係者等の協力を得るなど、対応に困難がある場合のサポート体制を整えておく。
- いじめが解決したと思われる場合でも、十分な注意を払い、折に触れ必要な支援を継続する。
- 指導記録等を作成し、生徒の進学・進級や転学にあたって、引き継ぎを行う。

## ③－Ⅱ 保護者と連携する

### 《学級担任を含む複数の教員》

- 事実を確認の後、家庭訪問（加害者、被害者とも。また、学級担任を中心に複数人数で対応）等により、迅速に事実関係を伝えるとともに、今後の学校との連携方法について話し合う。
- いじめられた児童生徒を徹底して守り通すことや秘密を守ることを伝え、できる限り保護者の不安を除去する。
- 事実確認のための聞き取りやアンケート等により判明した、いじめ事案に関する情報を適切に提供する。

### 資料3

## いじめられた児童生徒・いじめた生徒に見られるサイン<例>

### (1) いじめられた児童生徒のサイン

いじめられた児童生徒は自分から言い出せないことが多い。複数の教職員が、複数の場面で児童生徒を観察し、小さなサインを見逃さないことを大切にする。

場 面	☑	サ イ ン
登校時 朝の会	<input type="checkbox"/>	遅刻・欠席が増える。その理由を明確に言わない
	<input type="checkbox"/>	教職員と視線が合わず、うつむいている。
	<input type="checkbox"/>	体調不良を訴える。
	<input type="checkbox"/>	提出物を忘れてたり、期限に遅れたりする。
	<input type="checkbox"/>	担任が教室に入室後、遅れて入室してくる
授業中	<input type="checkbox"/>	保健室・トイレに行くようになる。
	<input type="checkbox"/>	教材等の忘れ物が目立つ。
	<input type="checkbox"/>	机周りが散乱している。
	<input type="checkbox"/>	決められた座席と異なる席に着くことがある。
	<input type="checkbox"/>	教科書・ノートに汚れがある。
休み時間等	<input type="checkbox"/>	給食や弁当にいたずらをされる。
	<input type="checkbox"/>	昼食を教室の自分の席で食べない。
	<input type="checkbox"/>	用のない場所にいることが多い。
	<input type="checkbox"/>	ふざけ合っているが表情がさえない。
	<input type="checkbox"/>	衣服の汚れ等がある。
	<input type="checkbox"/>	1人で過ごすことが多い。
放課後等	<input type="checkbox"/>	あわてて下校する。または、用もないのに学校に残っている。
	<input type="checkbox"/>	持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされたりする。
	<input type="checkbox"/>	1人で部活動の準備、片づけをしている。

### (2) いじめた児童生徒のサイン

いじめた児童生徒がいることに気付いたら、積極的に児童生徒の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

☑	サ イ ン
<input type="checkbox"/>	教室等で仲間同士が集まり、ひそひそ話をしている。
<input type="checkbox"/>	ある児童生徒にだけ、周囲が異常に気を遣っている。
<input type="checkbox"/>	教職員が近づくと、不自然に分散したりする。
<input type="checkbox"/>	自己中心的な行動が目立ち、集団の中心的な存在の児童生徒がいる。

## 資料4

### 教室や家庭でのいじめのサイン<例>

#### (1) 教室でのサイン

教室内がいじめの場所となることが多い。教職員が教室にいる時間を増やしたり、休み時間に廊下を通る際に注意を払ったりするなど、サインを見逃さないようにする。

<input type="checkbox"/>	サイン
<input type="checkbox"/>	嫌なあだ名が聞こえる。
<input type="checkbox"/>	席替えなどで近くの席になることを嫌がる。
<input type="checkbox"/>	何か起こると特定の児童生徒の名前が出る。
<input type="checkbox"/>	筆記用具などの貸し借りが多い。
<input type="checkbox"/>	壁等にいたずら、落書きがある。
<input type="checkbox"/>	机や椅子、教材等が乱雑になっている。

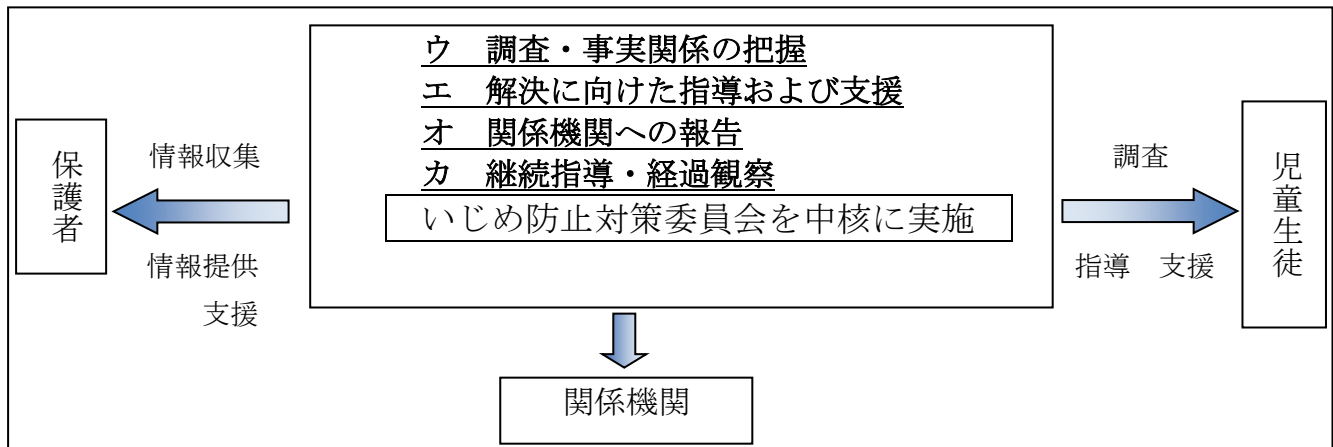
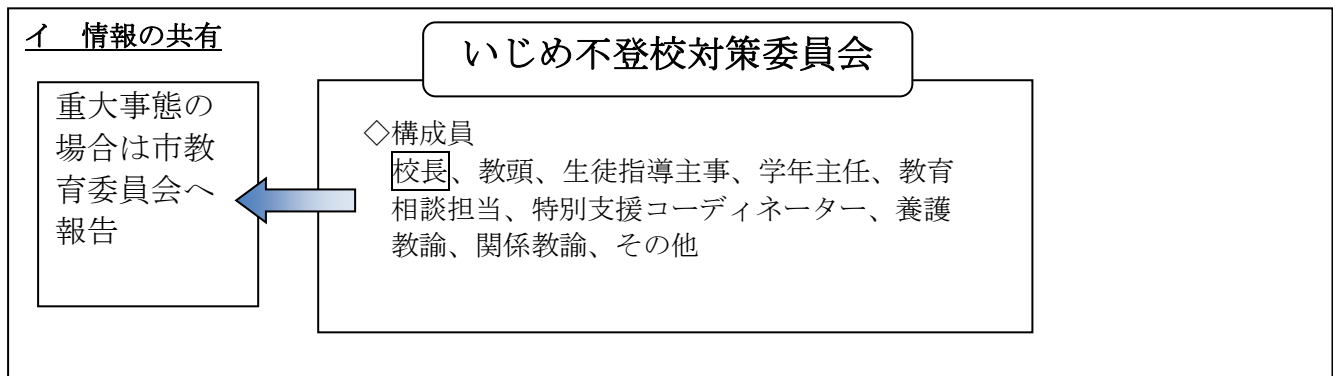
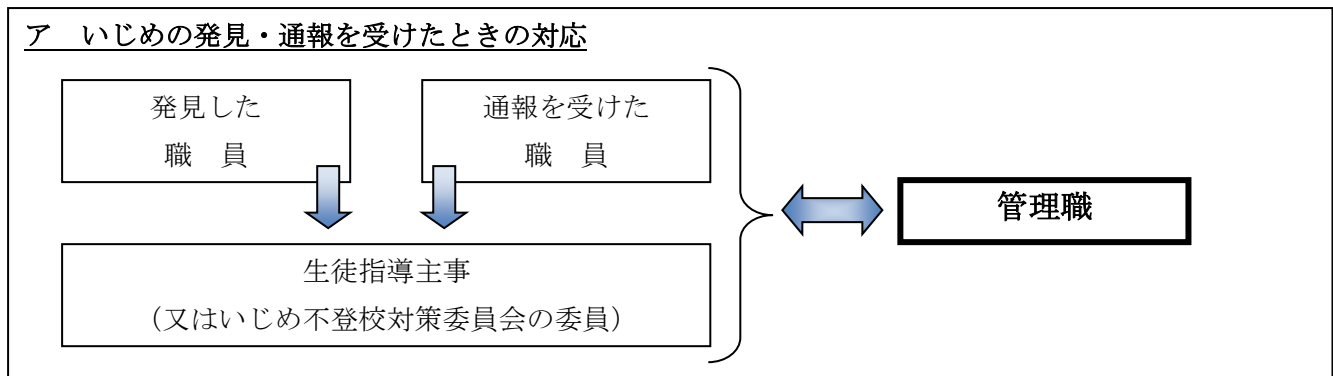
#### (2) 家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出している。児童生徒の動向を振り返り、確認することでサインを発見しやすい。以下のサインが見られたら、学校との連携が図れるよう保護者に伝えておくことが大切である。

<input type="checkbox"/>	サイン
<input type="checkbox"/>	学校や友人のことを話さなくなる。
<input type="checkbox"/>	友人やクラスの不平・不満を口にするようになる。
<input type="checkbox"/>	朝、起きてこなかったり、学校に行きたくないと言ったりする。
<input type="checkbox"/>	電話に出たがらなかったり、友人からの誘いを断ったりする。
<input type="checkbox"/>	受信したメールをこそこそ見たり、電話におびえたりする。
<input type="checkbox"/>	不審な電話やメールがある。
<input type="checkbox"/>	遊ぶ友達が急に変わる。
<input type="checkbox"/>	部屋に閉じこもったり、家からでなかったりする。
<input type="checkbox"/>	理由のはっきりしない衣服の汚れがある。
<input type="checkbox"/>	理由のはっきりしない打撲や擦り傷がある。
<input type="checkbox"/>	登校時刻になると体調不良を訴える。
<input type="checkbox"/>	食欲不振・不眠を訴える。
<input type="checkbox"/>	学習時間が減る。
<input type="checkbox"/>	成績が極端に下がる。
<input type="checkbox"/>	持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きされたりする。
<input type="checkbox"/>	自転車がよくパンクする。
<input type="checkbox"/>	家庭の品物、金銭がなくなる。
<input type="checkbox"/>	大きな額の金銭を欲しがる。

資料5

いじめに対する措置（緊急時の組織的対応）



学校の一体的な対応

